なすの台木品種について

1. 試験のねらい

本県のなすの接木栽培は、促成、半促成栽培の長期作型で行われているが、栽培面積の大部分を占める夏秋期の作型では少ない。しかし、最近、露地栽培においても、高品質・多収穫を志向する傾向が強く、接木栽培が増加している。そこで、各作型における台木品種の適応性について検討した。

2. 試験方法

台木品種としては、トルバム=ビガーほか 5 品種を供試し、穂木品種は千両 2 号を用いた。作型は促成栽培とトンネル早熟栽培の 2 作型で実施した。促成栽培では、昭和 6 1 年 7 月 8 日 に播種を行い、9 月 26 日に栽植距離 200×30 cmの 1 条に定植した。主枝は 2 本仕立てとした。トンネル早熟栽培では、昭和 61 年 12 月 31 日に播種を行い、昭和 62 年 4 月 16 日に栽植距離 200×60 cmの 1 条に定植した。主枝は 4 本仕立てとした。試験規模は両作型とも、1 区 5 株の 2 区制とし、施肥量は基肥として各 3 要素とも 3 kg/a 施用した。

3. 試験結果及び考察

促成栽培:初期生育は品種間に大差は認められなかったが、 サポート 1 号がやや優れた。厳寒期に入ると、トルバム・ビガー、 サポート 1 号の生育が順調に経過したのに対し、 i ート、アカナスでは草勢の衰えが目立ち、着果制限が必要であった。 その後、 i ートでは生育回復が早かったが、 アカナスでは遅れ、気温の上昇する 3 月以降となった。収穫終期である 5 月末の草勢は、 トルバム・ビガー〉サポート 1 号〉アシスト \ge 耐病 V F>i ート> アカナスの順となり、最も強草勢のトルバム=ビガーはやや過繁茂気味であった。総収量は草勢と同様の傾向を示し、トルバム=ビガーが最も多収であったが、強草のためか、収穫後期に着色不良果や曲り果など不良果の発生が多く、 可販果収量はトルバム=ビガー、 サポート 1 号が同等で優れ、次いで可販果率の高かったアシストがやや優れた。

トンネル早熟栽培:トルバム・ビガーが初期から生育旺盛で最も優れ、他品種は終了時の茎径がアンストでやや細かったが、草勢は他と大差みられず、ほぼ同等であった。総収量、可販果収量とも、トルバム=ビガーが最も多収で、ミートがやや低収であったほかはほぼ同程度であった。

4. 成果の要約

なすの台木品種について,作型別にその適応性を検討した結果,促成栽培においては,トルバム=ビガー,サポート1号が有望と思われ,トンネル早熟栽培においては,トルバム・ビガーが有望と思われた。

(担当者 野菜部 和田悦郎)

表-1 生育状況(促成,トンネル早熟栽培)

	台木品種 —	茎径 ************************************	茎 長 cm	茎径 ҭҭ	茎 長 <i>cm</i>	
_	口小吅俚	10.31 12.24終了時	10-31 12-24	5.18 6.22 終了時	5.18 6.22	
	サポート 1号	1 1.0 1 3.3 1 9.3	46.4 89.9	12.3 16.3 18.4	446 94.0	
	耐病 VF	9.7 1 1.5 1 7.6	4 2.5 7 8.1	12.2 15.9 18.3	46.0 97.6	
	₹ - ト	9.9 11.3 15.9	3 9.9 7 2.8	12.1 16.4 18.0	4 0.8 8 9.9	
	アシスト	1 0.3 1 2.1 1 7.8	4 5.9 8 3.4	11.6 15.2 16.9	4 2.9 9 1.1	
	トルバムビガー	10.3 13.4 23.6	4 4.6 8 6.8	12.6 18.4 22.5	46.2 94.4	
	アカナス	9.6 10.0 129	436 67.3	1 2.3 1 7.3 1 7.6	4 2.8 9 5.1	

表-2 促成栽培の収量

台木品種	株当り月別収穫個数						株当り可	a当り	a当り	
日 小 吅 恒	11.12月	1月	2 月	3 月	4 月	5 月	計	販収量g	収量kg	総収量kg
サボート1号	1 1.6	5.1	1 2.1	1 2.1	1 1.0	1 4.5	6 6.5	4,796	799	991
耐病 V F	9.9	4.0	9.9	1 2.0	1 1.8	1 4.0	61.5	4,206	701	877
$(1,\frac{1}{2})^{2} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{2} \right)^{2} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{2} - \frac{1}{2} \right)^{2} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{2} - \frac{1}{2} \right)^{2} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{2} - \frac{1}{2} - \frac{1}{2} \right)^{2} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{2} - \frac$	83	4.0	7.9	1 0.8	1 0.9	1 7.9	5 9.8	4,068	678	843
アシスト	1.0.5	6.3	1 0.5	1 1.6	118	1 4.5	6 5.1	4,577	763	914
トルバムビガー	5.5	7.6	1 1.6	1 1.4	1 9.1	1 6.8	7 2.0	4,797	799	1,109
アカナス	8.0	1.0	3.4	5.5	1 6.0	1 3.0	37.0	2,109	3 5 1	518

表-3 トンネル早熟栽培の収量

	株当り時期別収穫個数				株当り可	a 当り	a当り
台木品種 -	前 期	中期	後期	計	販収量g	収量kg	同左比 総収量kg
サポート1号	9.8	2 0.4	3 6.3	6 6.4	4,488	374	590 102
耐病 VF	9.5	21.4	3 8.3	6 9.1	4,709	392	588 102
₹ - F	9.5	2 0.1	3 0.0	5 9.6	4228	352	518 89
アシスト	1 0.6	1 9.4	3 3.3	6 3.3	4,569	381	570 98
トルバムビガー	7.6	2 2.3	4 2.1	7 2.0	5,9 9 0	499	666 115
アカナス	9.6	2 1 5	35.0	66.0	4,458	371	580 100

注 前期 5.11 ~ 6.10 中期 6.11 ~ 7.10 後期 7.11 ~ 8.10